

「いかに持続可能な形で観光を推進するか？
～コロナ後を見据えた地域での実践～」

2021年12月8日

UNWTO駐日事務所 副代表

鈴木宏子

1. UNWTOご紹介と国際観光動向
2. 持続可能な観光地づくりに向けたUNWTOの取組
3. 持続可能な観光地づくりに向けた地域での実践
(奈良県連携事業)
4. 地域での実践を踏まえた考察・まとめ



1. UNWTOご紹介と国際観光動向





159加盟国及び6地域と
500以上の賛助加盟員から構成

日本の賛助加盟員21団体

国連の専門機関(スペイン マドリッド)

持続可能な観光の促進

観光政策における課題及び実用的な観光
知識の議論の場の提供

世界の観光統計の収集、分析、予測

UNWTO駐日事務所

1995年: UNWTO唯一の地域事務所として日本に誘致。
アジア太平洋地域の29か国2地域の観光を支援

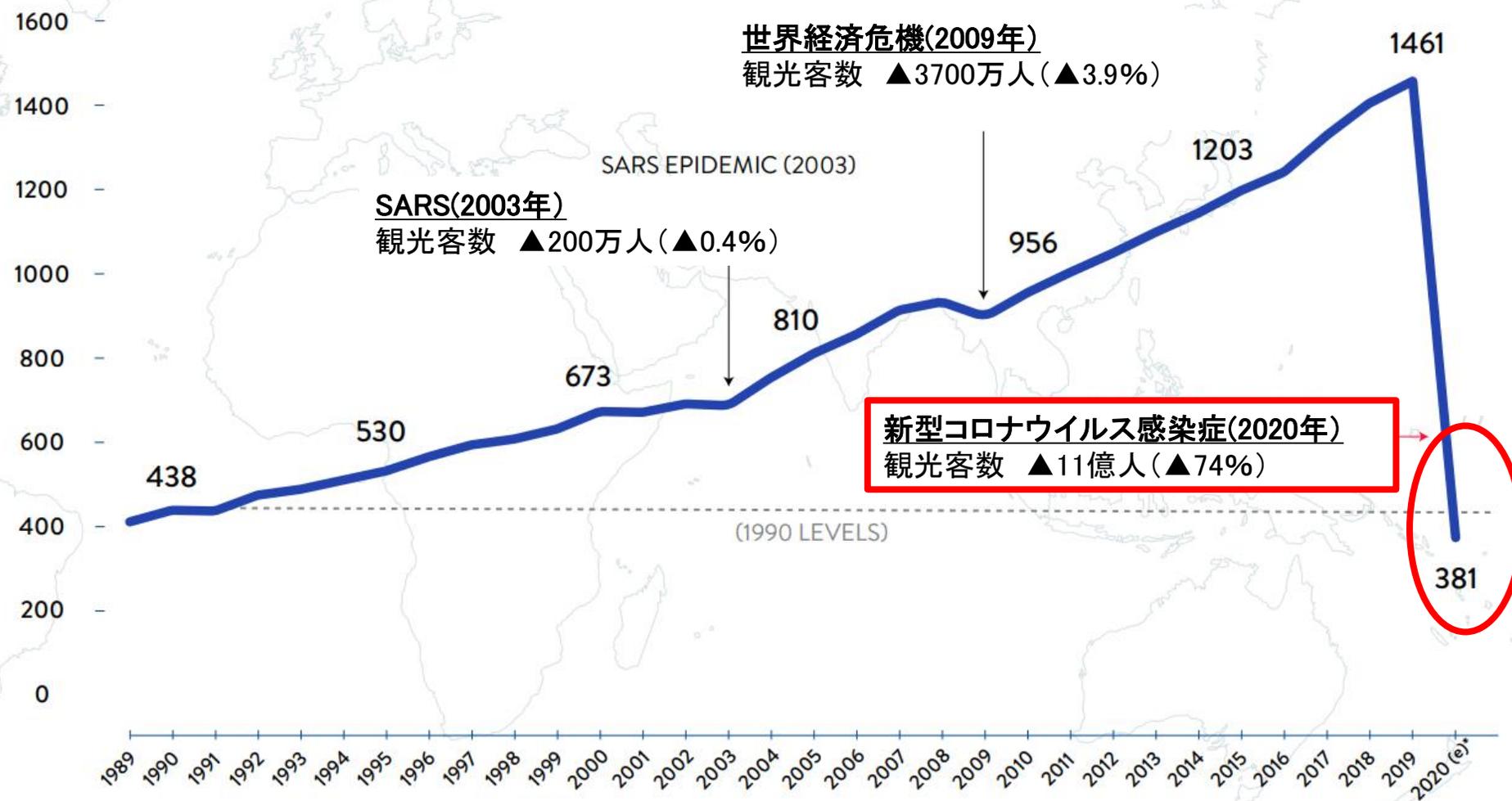
自治体・観光事業者の支援による運営

持続可能な観光地づくりの促進、調査研究

国際観光は1990年代の水準まで後退

(百万人)

【国際観光客数の推移】



コロナ禍が観光に与えた影響

国際観光客到着数の減少
-74%

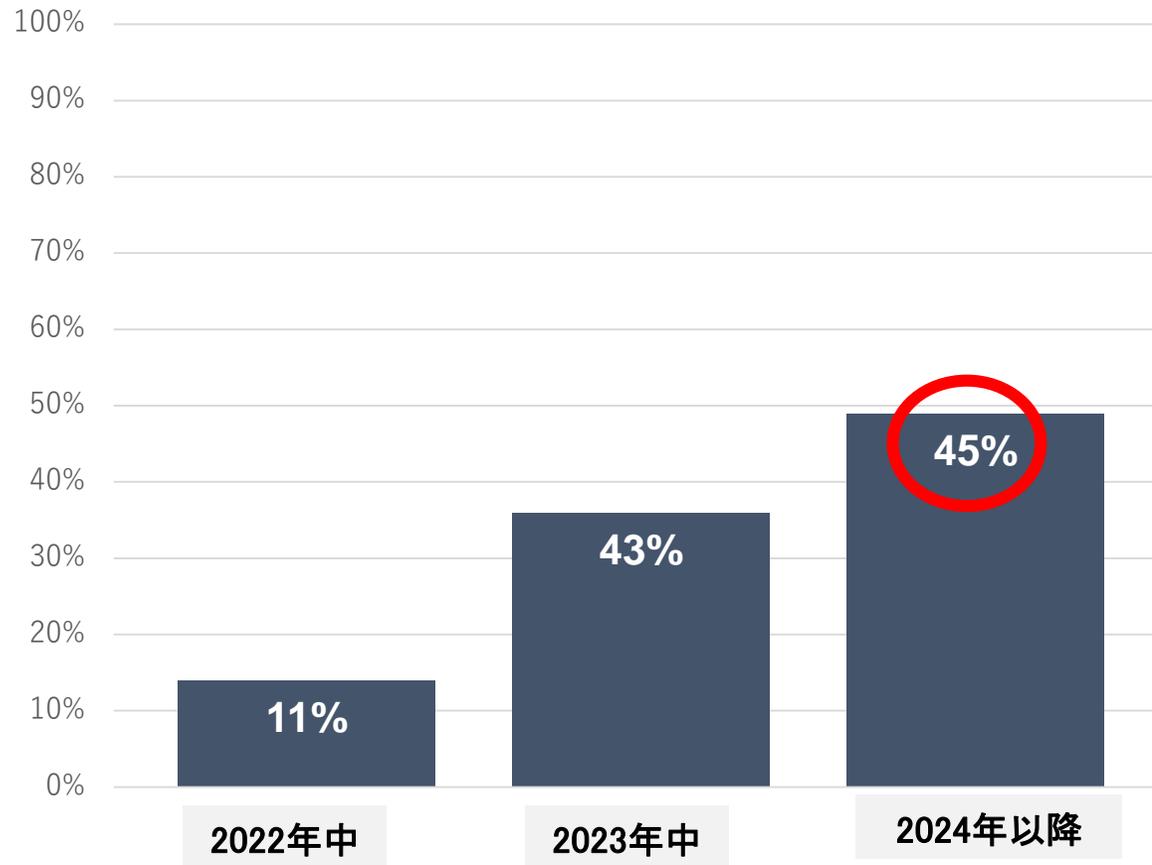
国際観光収入の損失
1兆3,000億米ドル

世界GDPの損失推計
2兆米ドル以上

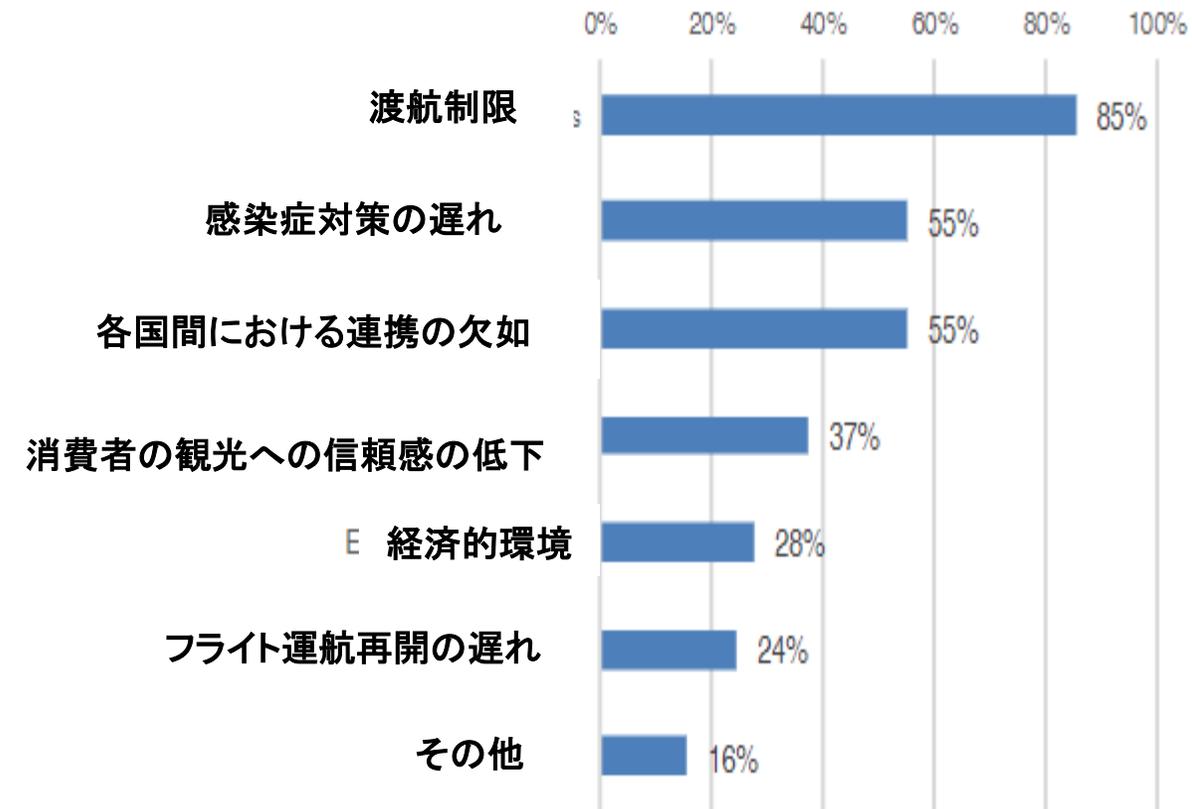
観光の直接的雇用の減少
1億-1億2,000万人

観光がコロナ前に戻るのはいつ？

【UNWTO専門家委員会による2019年の水準に戻る時期に関する予測】
(%は委員の回答率)



【国際観光の回復を妨げる要因は何ですか？】



コロナ禍を経て何が変わったか？

★61%が「今よりサステイナブルに旅行したいと思うようになった」(30か国約3万人を対象とした調査(2021年6月))

(出所)Booking.com“Sustainable Travel Report 2021”

★72%が「旅行を通じて地域コミュニティを応援したい」(7か国1万人を対象とした調査(2021年1月))

(出所)「世界の旅行トレンドに関する報告書」(アメリカン・エクスプレス、2021年)

観光客の行動変容 (UNWTOによる予測)

責任ある持続可能な観光

持続可能な観光、本物であること、地域コミュニティに良い影響を与えることを追求

新たな懸念

健康・安全対策やキャンセルポリシーが、消費者にとっての主な懸念に

出所: UNWTO Covid and Tourism <https://www.unwto.org/covid-19-and-tourism-2020>

より近く

より近隣の場所へと旅をする傾向

密を避ける

自然、ルーラルツーリズム、車の旅が人気に

若年層に回復力

旅行の回復は若年層が牽引

「コロナ禍からの回復を加速するためのUNWTOの提言(2020年4月)」

- 刺激策と復興対策において、持続可能な観光を国家的課題にしっかりと位置付ける

(出所)UNWTO, A Call for Action to Mitigate the Socio-Economic Impact of COVID-19 and Accelerate Recovery

2. 持続可能な観光地づくりに 向けたUNWTOや海外の取組

【持続可能な観光のイメージ図】



“訪問客、業界、環境及び地域社会のニーズに対応しつつ、現在及び将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮に入れた観光”

(UNWTO, 2004)

長期的経済
活動の保障

経済的に
成長できる

環境的に
適正である

環境資源の
利用の最適化

社会・文化的
に好ましい

地域コミュニティ
への配慮

UNWTOの取組 — 持続可能な観光地づくり国際ネットワーク

● The UNWTO International Network of Sustainable Tourism Observatories

● 持続可能な観光地づくり国際ネットワーク

➤ INSTOとは、観光地単位で、指標に基づく観光地づくりの活動を行うネットワーク

➤ 加入地域は2021年12月現在30か所。日本での加入地域はない。

中国8、ギリシャ1、メキシコ1、インドネシア5、クロアチア1、ブラジル1、アメリカ1、ポルトガル3、イタリア1、パナマ1、スペイン3、グアテマラ1、アルゼンチン1、オーストラリア1、カナダ1

➤ INSTOの目的は、「計測できないものは、改善できない」という考えの下、エビデンスに基づいた政策形成を実現すること



- 地域の目指す方向性に向け、いかに観光を発展させるかについて、地域の関係者が一丸となって議論・取組を行うことを重視
- ボトムアップ型＝地域の関係者による協議会(ワーキンググループ)組成がINSTO加入の必要条件
- UNWTOの推奨する取組のステップに基づき、ボトムアップ型でエビデンス・ベースの政策形成を行う

ワーキンググループ: 地域のなりたい姿に向け、いかに観光を持続的に発展させるか、地域レベルで議論するプラットフォーム

【ワーキンググループの例】



【特徴】

- ◆ 地方自治体、DMOが中心のケースが多い
- ◆ **地理的規模は問わない**。市町村レベルから都道府県レベルまで様々
- ◆ **継続性**の観点から、**行政の支援**を受け運営されているところが多い

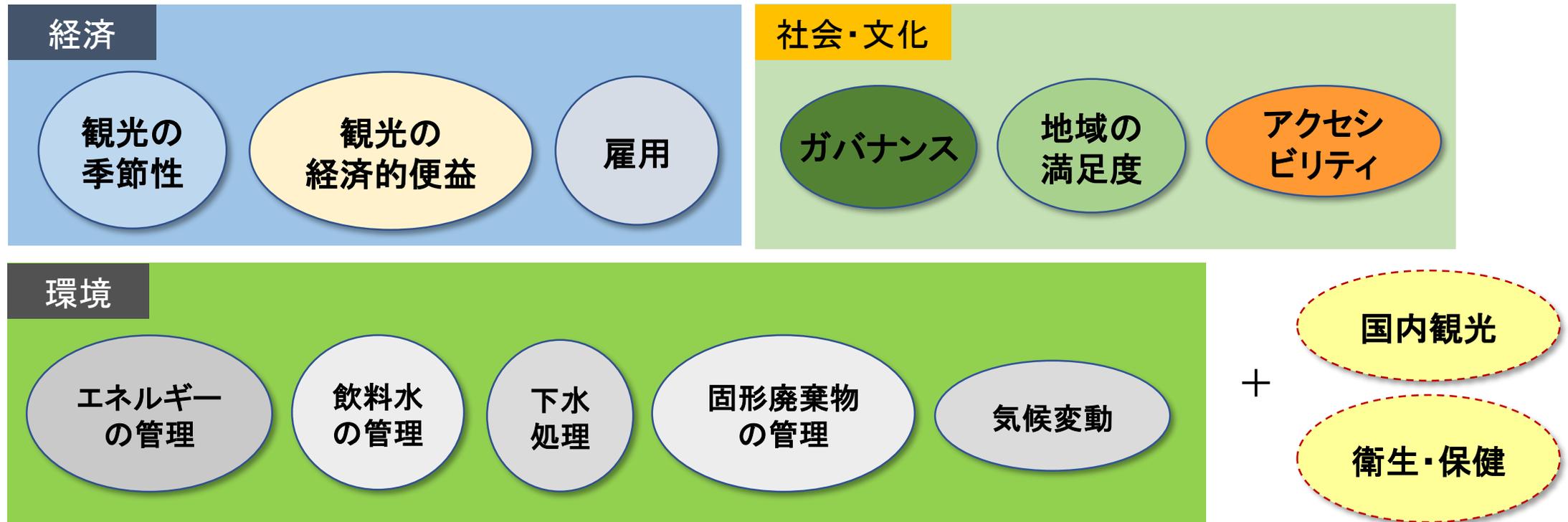
【取組のステップ】

- 取組む目的の明確化、関係者の参画
- 地域のなりたい姿と課題を明確にする
- 課題に応じた指標を決定する
- 指標を計測し、分析・公表・改善する

施策の実施、分析、改善

- 観光地でモニタリングすべき指標は、①「経済」、②「社会・文化」、③「環境」の3分野の11項目の基本的課題の領域について指標を設定することが求められる
- 現在、コロナ禍を踏まえ、「衛生・保健」、「安全」、「国内観光」に関するモニタリング項目の追加が検討されているところ
- どの指標を設定するかは地域の裁量に任されている。

UNWTOがINSTO加入においてモニタリングを求める11項目の領域



①自己分析を踏まえた政策立案

地域の課題、成長機会を客観的・定量的に把握・検証することにより、より良い政策立案ができる

②関係者との合意形成・連携強化

- 関係者ワーキンググループの組成が加入の要件
- 指標により課題を「見える化」することで、地域の合意形成・連携強化ができる

③住民の理解促進・説明責任

観光推進に関する現状や取組の成果、地域が得られるメリットについて、エビデンスを用いて住民に説明できる

④世界への発信(プロモーション、ブランディング)

UNWTOの国際会議等において、持続可能な観光に関する取組を世界に発信することができる

INSTO参加のプロセスを通じ、持続可能な観光に向けた取組を実現できる！

カナダ(トムソン・オカナガン)の事例

- DMO(トンプソンオカナガン観光協会)が中心となって、州政府、地域の大学、少数民族協会等と連携してワーキンググループを組成し、2019年にINSTOに加入
- 「①季節性」、「②観光資源の点在」、「③先住民の支援、住民生活との調和」、といった課題に応じた指標を設定し、モニタリングを実施

位置

- ・カナダ・ブリティッシュコロンビア州
- ・湖に面した丘陵地帯

面積

71,600 km²

人口

612,943人

観光資源

- ・ 自然・野生生物公園(カナダの夏の遊び場)
- ・ アドベンチャーツーリズム
- ・ 先住民文化

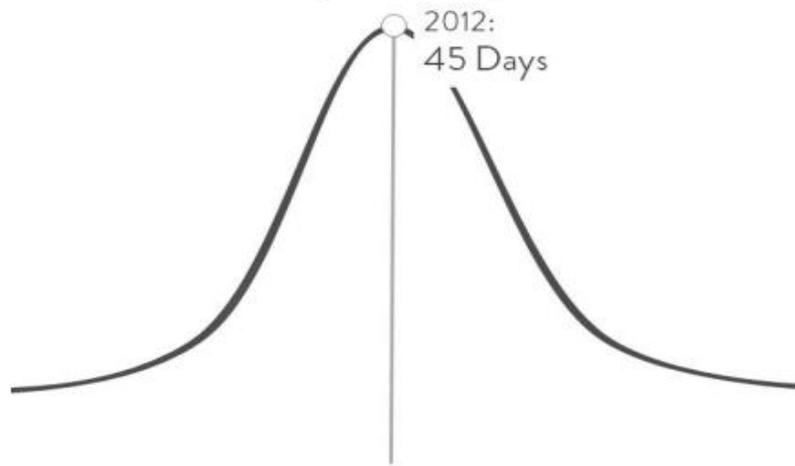
観光の課題

- ①季節性
- ②観光資源の点在
- ③先住民の支援、住民生活との調和



①季節性の問題:7~9月に観光客が集中

【観光収入】
夏季の45日間で観光収入の80%



【観光収入】
平準化(110日で80%の観光収入)



- モニタリング指標
- ・月別、年間別の観光客数
 - ・国内観光客の旅行パターン
 - ・観光客の消費傾向
 - ・ホテル稼働率
 - ・地域住民の満足度

5つの観点から
新たな観光商品開発

- 地域を象徴する商品の発掘
- 先住民族に関するストーリーの発信
- 地域の食を豊かに
- 人々の視野を広げる
- 「本物」の体験

②観光資源の点在 アクセシビリティの改善

- 平均寿命の伸長に伴い、アクセシビリティの改善は競争力を左右
- ISOはアクセシブルツーリズムに関する基準を2021年7月に発表

①アクセシビリティに関する指標

- 障がいのある観光客用の駐車場の有無
- 点字の案内
- 観光ガイドの障がい者対応訓練の有無

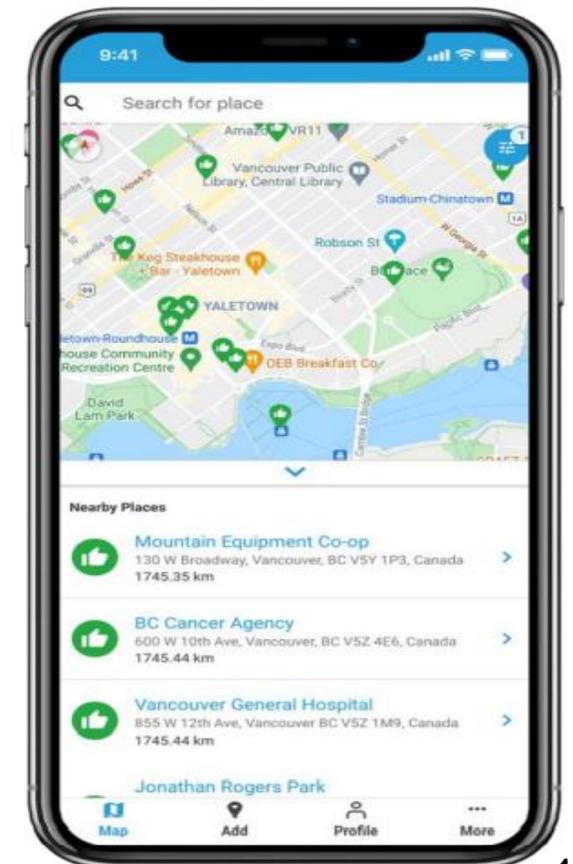


アクセシビリティに関する情報を格付けし、アプリを活用して消費者に提供

②アクセシビリティの専門家(元パラリンピック選手)の雇用



アプリ「アクセシブル・ナウ」



③先住民支援、住民生活との調和

現在の決断が7世代にわたり影響を与えるという考えの下、先住民の哲学に基づき、「誓約」を作成し、観光客・観光事業者に署名を促している

7つの誓約

①本質	その土地の歴史に裏付けられた本質(Soul)を発見しよう
②そっと歩いて	あなたは、この場所、空気、水を守る人になります
③よいお隣さんになろう	私たちは皆さんに寛いでほしい。皆さんも同様に地域への敬意を忘れないで
④安全に旅をしましょう	心のまま、賢く冒険してください
⑤自然と調和した生活を	野生生物の掟を守り、自然と調和することは、幸福感をもたらします
⑥地域の産品を選ぼう	地元で作られた工芸品や製品を購入しよう
⑦他の人にも教えよう	価値のあることを共有しよう



3. 持続可能な観光地づくりに向けた 地域での実践（奈良県連携事業）



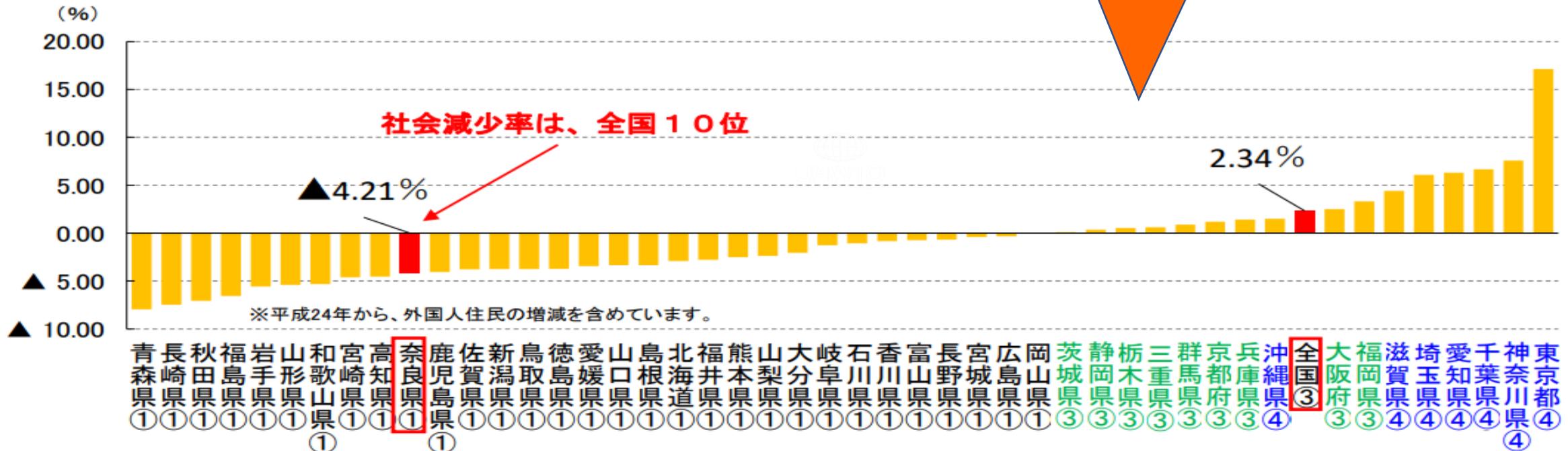
奈良県における課題

●地域の課題(社会・文化)

高齢化・人口減少(特に若年層で転出超過大)

奈良県の社会減少率は全国10位と大きい

都道府県別の社会減少率



- ① 社会減 自然減 31道県
- ② 社会減 自然増 -
- ③ 社会増 自然減 9府県
- ④ 社会増 自然増 7都県

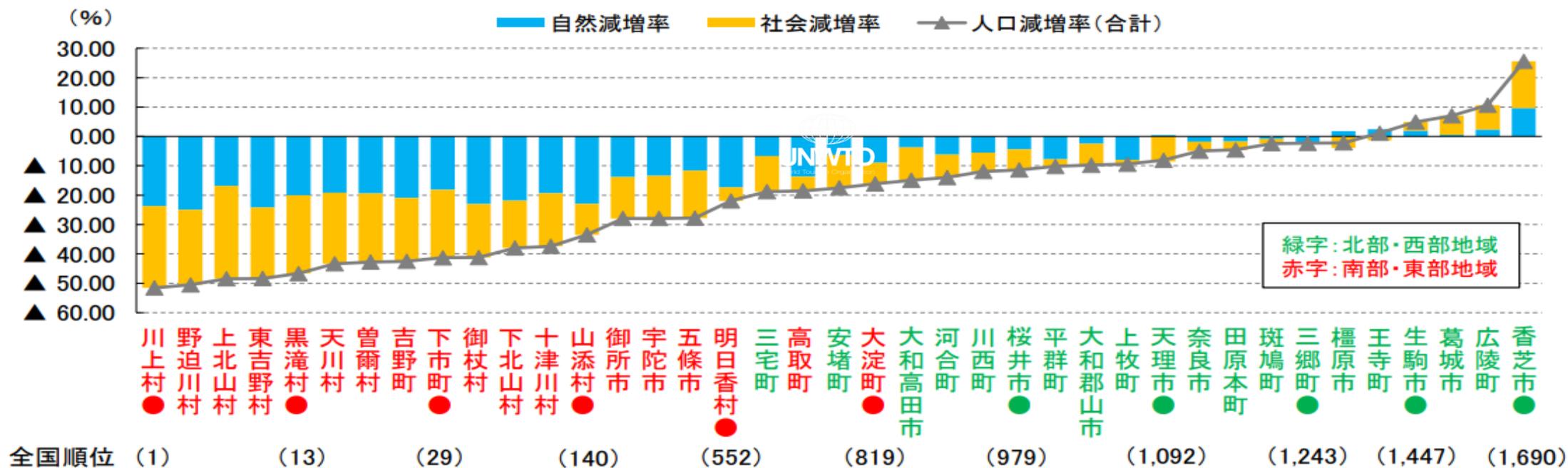
出典)住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(総務省)より作成

●地域の課題(社会・文化)

過疎化(県南部・県東部の停滞)

全国1741市町村を対象とした人口減少率のランキングの上位30位以内に奈良県の9市町村

市町村別の人口減少率



出典)住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(総務省)より作成

●地域の課題(経済)

雇用維持、生産の各側面(工業、農業、サービス業(宿泊施設等))に弱み

【都道府県別ランキング】

- 就業率 最下位
 - 事業所数 38位
- 働く場所の確保
- 工業系用途比率 最下位
- 工業誘致
- 道路整備率 46位
- 交通基盤の充実
- 農業産出額 45位
- 農業振興
- 宿泊施設数 43位
- 観光振興

●地域の課題(環境)

耕作放棄地、施業放置林、獣害など

⇒住み続けられない

里に近い耕作放棄地

現在



施業放置林(間伐前)

林地の状況



平成23年紀伊半島大水害
における山地災害

地域の体制づくり、住民の利便性向上

「Administration」(観光振興の土台づくり)

事業者、自治体等各々の観光振興実施主体の積極的な参画の実現

観光に関するデータの質と量の充実と利活用

「Amenity」(滞在環境の快適性の向上)

外国人観光客交流館、Wi-Fiの整備、案内サインの多言語化

「Access」(効率的な交通道路体系の形成)

バスターミナルの整備、バス交通情報の提供充実化

リニア中央新幹線の開業

【観光振興による経済活性化】

「Amusement」(楽しい奈良の実現)

四季を通じたイベントの実施

お土産、買い物環境の充実・魅力ある商品開発

「Accommodation」(宿泊施設の質と量の充実)

国際ブランドホテル「JWマリオットホテル奈良」の開業

修学旅行・スポーツ合宿等の促進

「Appeal」(プロモーションの強化)

県内、国内外におけるプロモーションの強化

MICEの誘致競争力の強化

【文化の保全・活用】

「Attraction」(歴史・文化資源の保存と活用)

飛鳥・藤原の世界遺産登録を目指す

なら歴史芸術文化村の整備

【農の振興を通じた観光活性化】

「Appetite」(食の魅力向上)

なら食と農の魅力創造国際大学校(NAFIC)の設立

2022年ガストロノミーツーリズム世界フォーラム誘致

2021年度奈良県における持続可能な観光地づくりUNWTO連携事業(委託業務)

県内の個別地域を選定

ワーキンググループを開催

UNWTOが有する専門的知見を活用

「奈良県における持続可能な観光地づくりに向けたあり方」を策定

7月より地域へのアプローチを開始

奈良県

支援

UNWTO駐日事務所

- ・ワーキンググループ立ち上げ支援
- ・地域内・外をつなぐ

地域を一緒に盛り上げる！

「山の辺の道」エリア

ワーキンググループメンバー

地元大学	地域住民	地域農家
DMO	市町村	地域事業者
ボランティア	文化施設	地元商店街

- 持続可能な観光に取り組んだら、儲かるのか？
- 経済対策に基づく数値目標は具体的で分かりやすい

取組の優先順位

No	企画・提案
1	〇〇企画：〇〇人
2	××企画：〇〇人
3	△△企画：〇〇人
	・
	・
	・
	・
	・
	・
	・
	企画合計：〇〇〇人！

提案書

UNWTO

<持続可能な観光>

提案書

〇〇交通

<周遊企画パス>

年間〇〇人の送客
が可能！

提案書

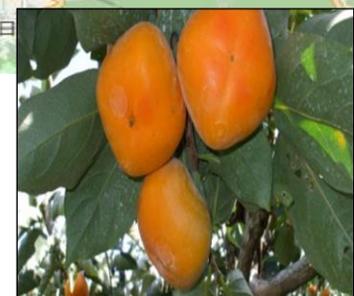
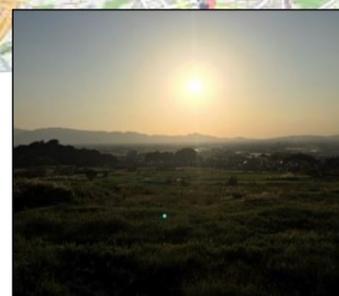
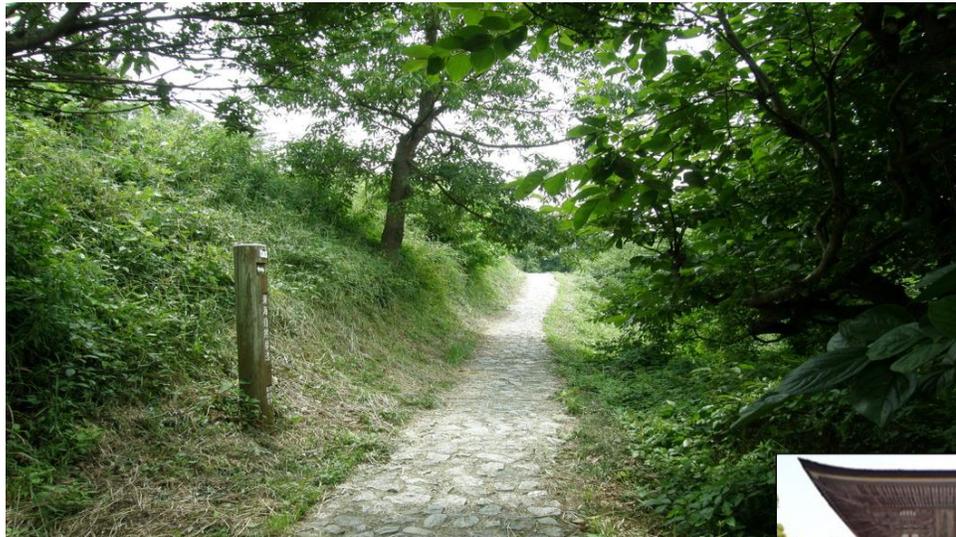
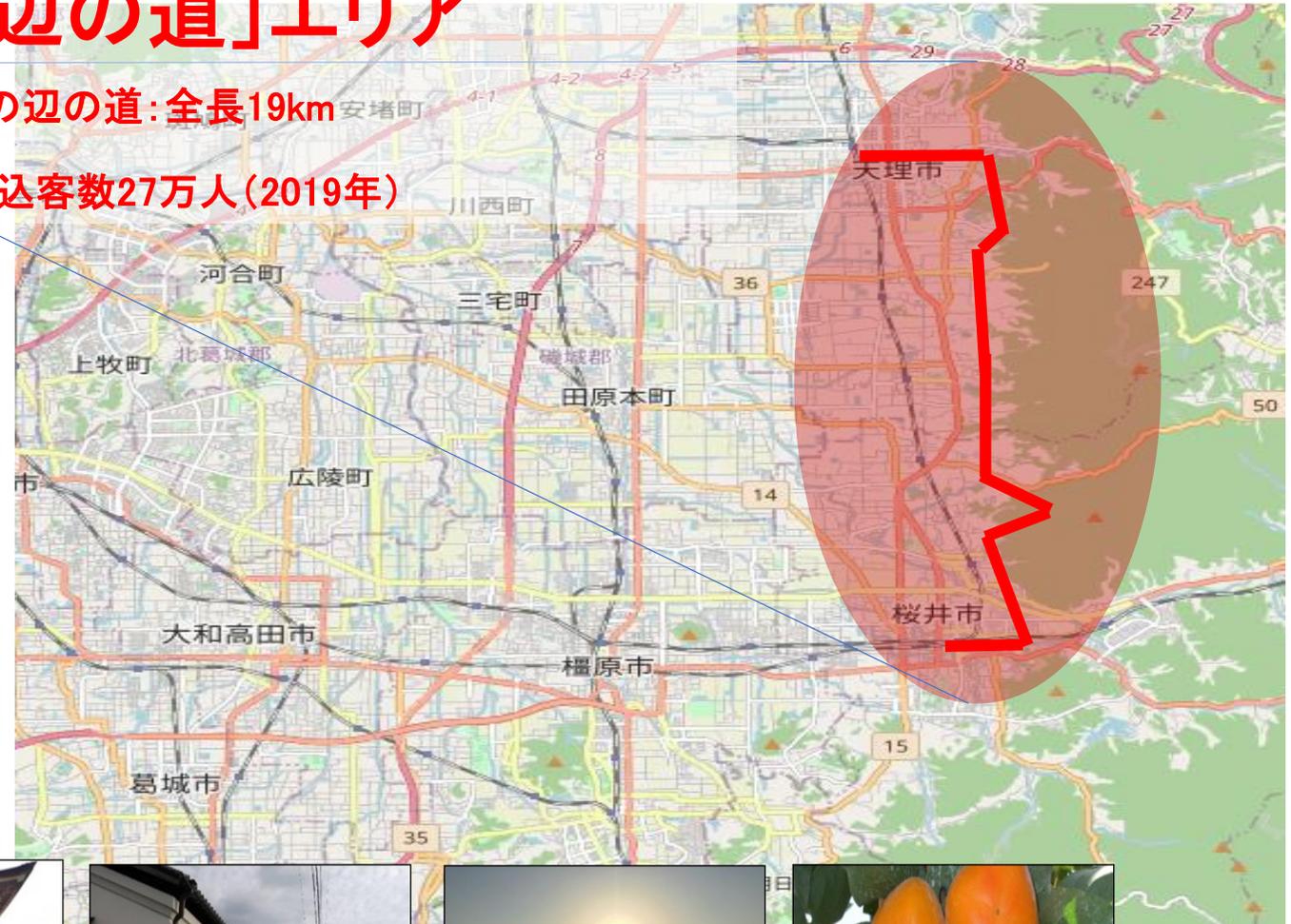
△△コンサル

<ワーケーション企画>

年間〇〇人の誘客
が可能！

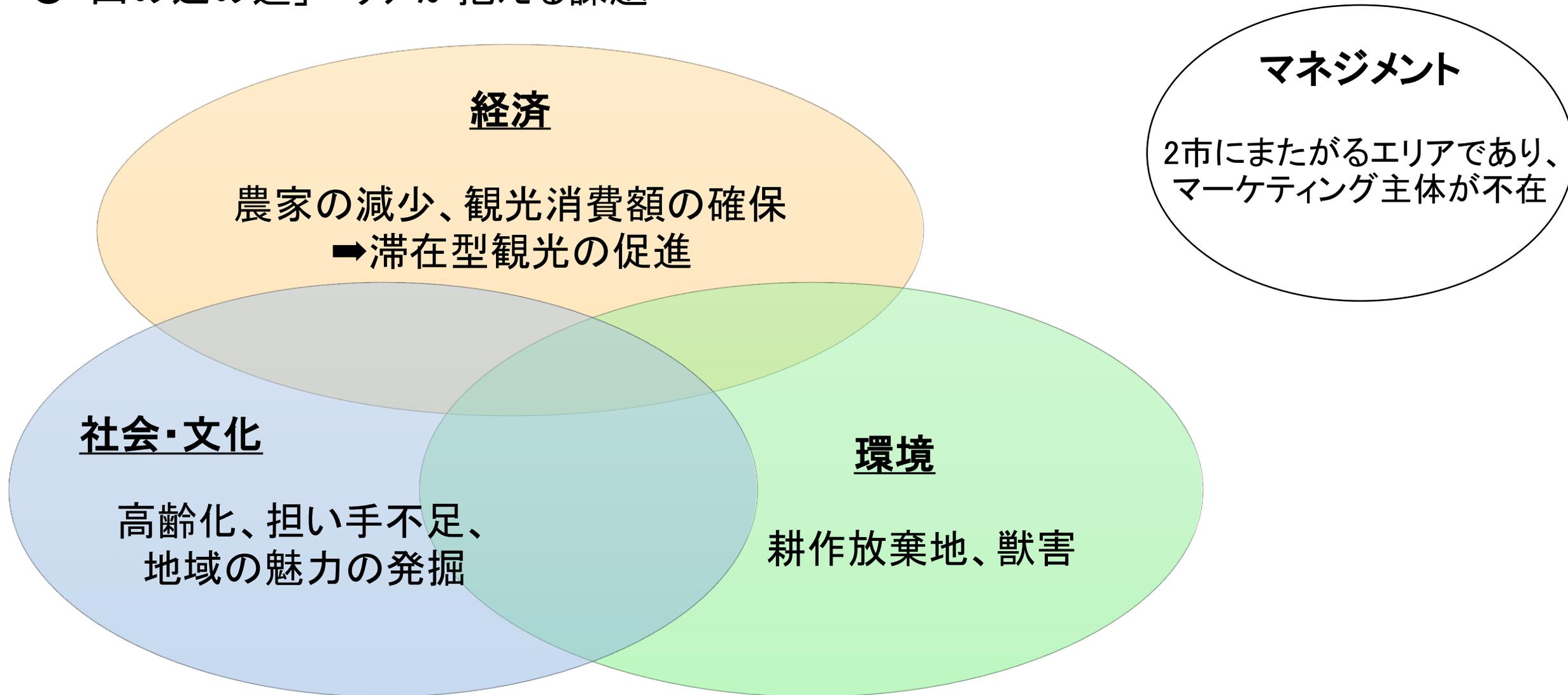
「山の辺の道」エリア

- ・山の辺の道: 全長19km
- ・観光入込客数27万人(2019年)



出典)奈良県資料

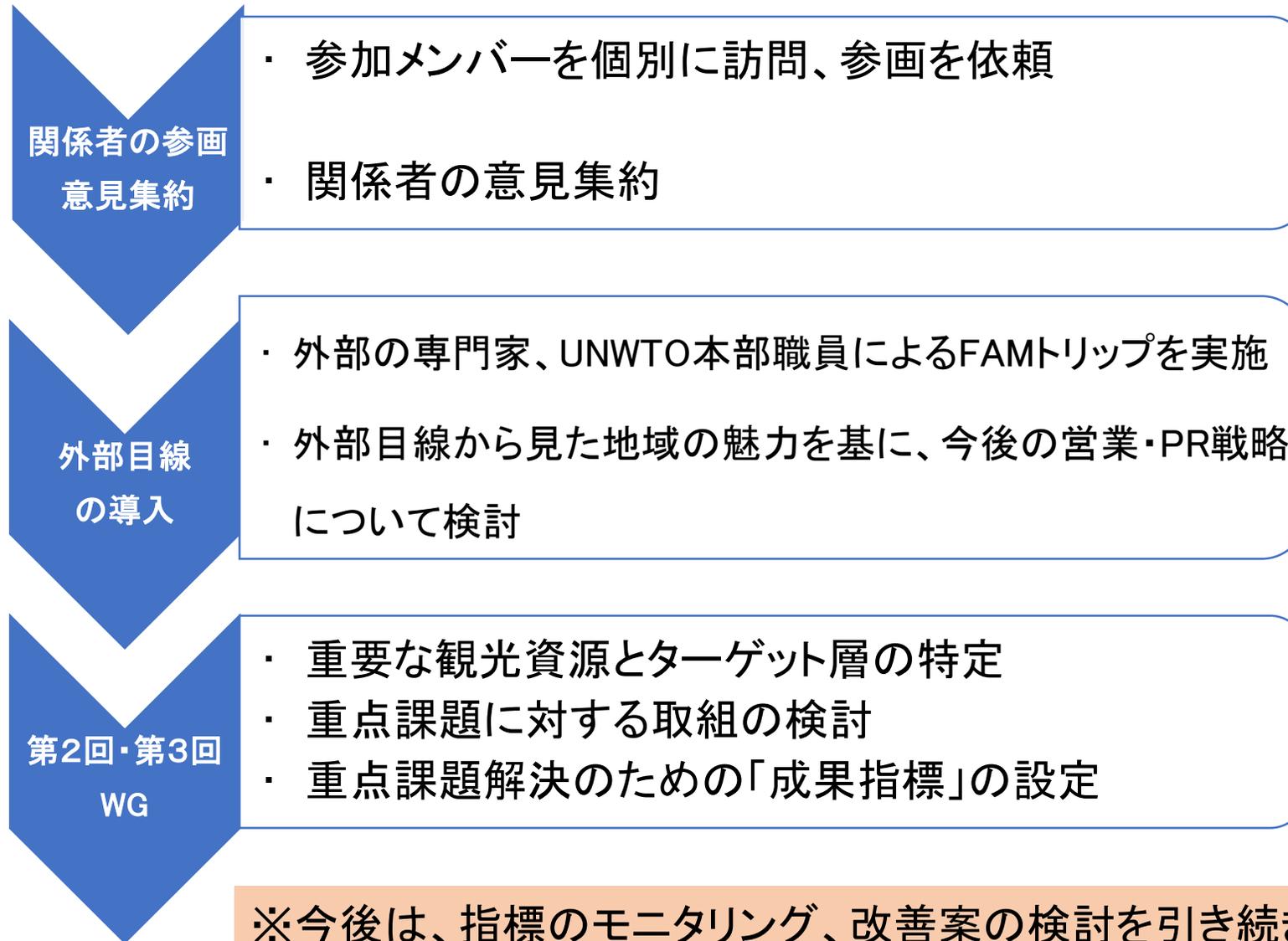
●「山の辺の道」エリアが抱える課題



モデル地域-「山の辺の道」エリア-具体的取組

【今後の進め方】

【UNWTOが推奨するステップに基づき実施】



＜第1回WGで実施＞

ステップ1 対象地域を決める

ステップ2 利害関係者を特定し、参画させる

ステップ3 観光資源と「現状の課題」を洗い出し、把握する

ステップ4 なりたい姿を共有し、「今後の課題」を明確にする

＜第2回・第3回WGで実施＞

ステップ5 重点課題を特定し、合意を形成する

ステップ6 重点課題を解決する取組を検討し、共有する

ステップ7 重点課題を踏まえて指標を検討する

ステップ8 指標を特定し、計測手法を具体化する

※今後は、指標のモニタリング、改善案の検討を引き続き実施予定

モデル地域-「山の辺の道」エリア-第1回WGで出た主な意見

ステップ3 観光資源と「現状の課題」を洗い出し、把握する

ステップ4 なりたい姿を共有し、「今後の課題」を明確にする

魅力ある観光資源について

- ホンモノがあること。“時間帯別の自然や川の音”、住民生活と“自然”の調和
- “文化が地域の生活に密着していること”
- “時間帯(早朝・夜間)で変化する体験”

地域が抱える課題について

- 景観の保全を持続可能性がある仕組みで実施すること
- 耕作放棄地の存在、担い手となる後継者の不足
- 外部視点の導入

地域をどうしていきたいか

- 「山の辺の道」エリアで2000年に渡って育まれた歴史・文化・自然に触れてもらいたい
- 地域の魅力をPRできる様々なストーリーを創りたい
- 今まで来ていない層(若年層・ファミリー層等)の来訪による賑わいづくり



【第1回WGの様子】

4. 地域での実践を踏まえた考察・まとめ





<北 陸>

新型コロナウイルスの影響で観光事業者が大きな打撃を受けている中で、**短期的な効果が期待できない持続可能な観光に投資する余力がない。**

サステイナブルの取組を行っていかねばならない意識はあるものの、具体的にどうすべきか、どこまでやったら良いのかが難しい。**事業者は利益を出さないといけないが、取組の費用対効果が分かりづらい。**

<近 畿>

道路・交通機関・Wi-Fi等のインフラ整備への投資が、**地方都市では自治体の財政上でできていない**のが現状。そういった投資を待たずとも、発展を遂げている地方都市の事例を伺いたい。

観光の効果(経済的な効果や文化の維持・継承など)について、**地域住民にとってのわかりやすいデータや効果的な周知方法が不足している。**

<北海道>

民間事業者が持続的に「日本版持続可能な観光ガイドライン」に取り組むためには**集客や収益につながることを示すと理解が深まるように感じる。**



【実施箇所】

- 10月 4日 北海道運輸局
- 10月 5日 東北運輸局
- 10月19日 北陸信越運輸局
- 10月25日 中部運輸局
- 11月10日 近畿運輸局
- 11月11日 四国運輸局
- 11月15日 九州運輸局
- 11月18日 中国運輸局
- 11月26日 関東運輸局
- 12月 3日 沖縄総合事務局



持続可能な観光と
経済の両立は
無理なのではないでしょうか？



ハワイのハナウマ湾の例



ANN

STATION

NEWS

Hawai'i Institute of Marine Biology

未来もここから

プロジェクト

THE FUTURE STARTS HERE

ハワイ「新しい観光」へ
観光客減で起きた「変化」

コロナ後の変更点

入場を予約制にした

入場前に環境保全に関するビデオ視聴

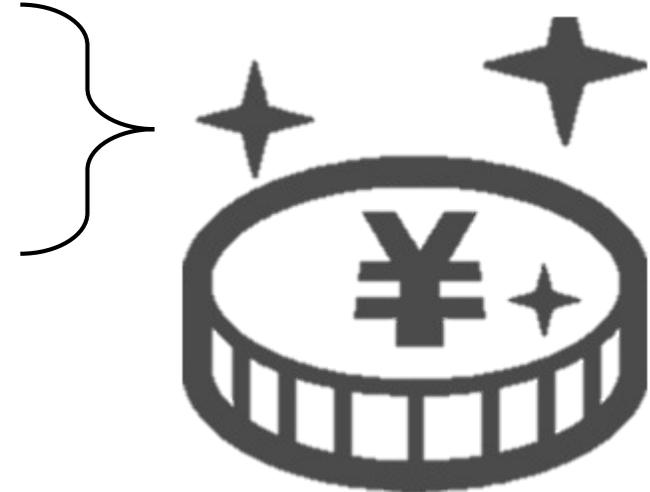
入場料を12ドルから25ドルへ値上げ

入場者数を3,000人から720人へ減らした



出所：ハワイ州観光局公式ポータルサイト allhawaii（オールハワイ）

観光収入の
売上げはようになる？



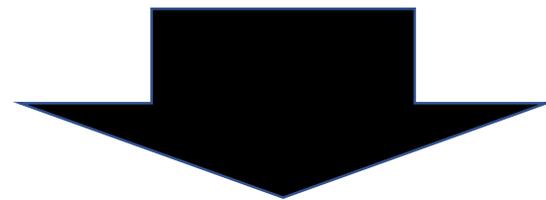
入場料: 11ドル → 25ドルへ値上げ

ハナウマ湾の場合

入場者数を3,000人 → 720人へ減少

※1ドル=100円で計算

1,200円 X 3,000人 = 360万円



売上はちょうど半分

2,500円 X 720人 = 180万円

みなさんの地域なら、どのような判断になりますか？

みなさんの地域では？

入場料をもう少し
安くした方が良い
のでは？

これじゃ収入が
少なすぎる！

入場制限しすぎ？

いったいどう
なりたい？

利害関係者の参画

現状の「課題」把握

なりたい姿を共有

など

手 引 書

ステップ1～

ステップ4

みなさんの地域では？

ある程度儲かったほうがいい！

これなら
まあまあ環境に優しい！

我々では計測できない

ある程度？
まあまあ？
分かん！

課題特定、合意形成

課題を踏まえた指標検討

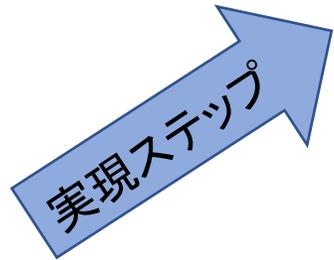
計測手法の具体化

など

手引書

ステップ5～

ステップ8



手引書

ステップ1 対象地域を決める

ステップ2 利害関係者を特定し、参画させる

ステップ3 観光資源と「現状の課題」を洗い出し、把握する

ステップ4 なりたい姿を共有し、「今後の課題」を明確にする

ステップ5 重点課題を特定し、合意を形成する

ステップ6 重点課題を解決する取組を検討し、共有する

ステップ7 重点課題を踏まえて指標を検討する

ステップ8 指標を特定し、計測手法を具体化する

ステップ9 データを収集し、指標を計測する

ステップ10 指標の推移を分析し、取りまとめて公表する

ステップ11 指標や経営体制を見直し、改善する

地域のなりたい姿
と課題を
明確にする

ステップ群A

解決する課題を
特定し、指標を
具体化する

ステップ群B

指標を計測し、
分析、公表、
改善する

ステップ群C

「経済」「社会・文化」、「環境」のバランスをどうとるかは各地域の状況により判断

持続可能な観光だけを中心に考えると難しい場合も。スタートアップ時には行政の支援等も重要

観光戦略や新たな取組みを始める際には、持続可能な観光の要素に配慮する

進め方や配慮すべきポイントは「手引き」に書かれている

長期的経済活動の保障

経済的に成長できる

環境的に適正である

環境資源の利用の最適化

社会・文化的に好ましい

地域コミュニティへの配慮

「手引き」を手にとって始めてみましょう！

ご清聴ありがとうございました



UNWTO駐日事務所
info@unwto-ap.org